整理番号

D－2－4　　444

標 題 名

岐阜県公報

岐阜県令第二十号　害虫駆除予防規則の制定

著 者 名

発行者名

岐阜県

発 行 年

明治４２

製作年月

平成３０年８月

岐阜縣公報　號外　明治四十二年五月廿二日

○縣令

○岐阜縣令第二十號

害蟲驅除豫防規則左ノ通定ム

明治四十二年五月二十二日

岐阜縣知事　薄　定吉

害蟲驅除豫防規則

第一條　害蟲驅除豫防法第二條ニ依リ本縣下ニ於テ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類ハ左ノ二十種トス

	種類名稱	被害作物
一	螟蟲　イネノズイムシ	稻
二	浮塵子　ウンカ	稻
三	苞蟲　イチモジセヽリ	稻
四	螟蛉　イネノアヲムシ	稻
五	切蛆　キリウジ	稻
六	稻蟲　イナゴ、ハネナガイナゴ	稻
七	尨蟲　ムクゲムシ、クロムクゲムシ	稻
八	椿象　イネガメムシ、ハリガメムシ、クモガメムシ	稻
九	葉蟲　ドロハムシ、クワハムシ、ヒメハムシ	稻、桑
十	象鼻蟲　イネゾウムシ、ヒメゾウムシ、ナシゾウムシ	稻、桑、梨

植物防疫資料館図書之印

十一　天牛　クワカミキリ、トラフカミキリ、ホシカミキリ　桑、柑橘
十二　小蠹蟲　クワノシンクヒムシ　桑
十三　尺蠖　エダシャクトリ、トグシャクトリ　桑
十四　葉捲蟲　クワノシンムシ、イトヒキハマキムシ、クワハマキムシ、オカロハマキムシ　桑
十五　蛸蟓　キンケムシ、クワケムシ、チャケムシ、ホシハマキケムシ
十六　避債蟲　ミノムシ　桑、茶、果樹
十七　夜盜蟲　エンドノキリムシ、アワノヨトウムシ　茶、果樹
十八　僞瓢蟲　テントウムシダマシ、オホテントウムシダマシ　穀菽、蔬菜
十九　介殼蟲　カヒガラムシ　馬鈴薯
二十　立葉捲蟲　イネノタテハマキムシ　桑、果樹
　稻

第二條　害蟲驅除豫防法第十條ニ依リ害蟲驅除豫防法ヲ適用スヘキ黴菌ノ種類ハ左ノ三種トス

種類	名稱	被害作物
一	麥黑穗病　ハダカクロホ、カタクロホ、コムギノクロホ、コムギノナマグサクロホ	麥
二	桑赤澁病　クワノアカシブビヤウ	桑
三	桑枝枯病　クワノエダカレビヤウ	桑

第三條　害蟲及黴菌ノ驅除豫防方法ハ本則ニ定ムルモノ、外別ニ之ヲ告示ス

第四條　害蟲又ハ黴菌田畑ニ發生シ若クハ發生ノ虞アリト認メタル作人ハ直ニ驅除豫防ニ着手シ口頭又ハ書面ヲ以テ市町村長又ハ警察官吏ニ届出ツヘシ

警察官吏前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直チニ之ヲ關係市町村長ニ通知スヘシ

第五條　市町村長前條ノ届出若ハ通知ヲ受ケタルトキ又ハ害蟲或ハ黴菌田畑ニ發生シ若ハ發生ノ虞ア

リト認メタルトキハ直ニ作人ヲシテ驅除豫防ニ着手セシメ左記事項ヲ具シ町村長ハ郡長ニ市長ハ知事ニ報告シ同時ニ關係警察官吏ニ通知スヘシ

一　害蟲又ハ黴菌ノ名稱

二　發生又ハ發見ノ月日

三　發生ノ區域及驅除豫防方法

四　被害作物ノ名稱　被害見積反別及被害狀況

郡長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第六條　郡長ニ於テ作人ノ驅除豫防ヲ不完全ト認メタルトキ又ハ驅除豫防ノ必要アリト認メタルトキハ害蟲驅除豫防法第三條第一項ニ依リ期限ヲ定メ田畑作人ニ驅除豫防ノ施行ヲ命シ同時ニ前條第一項ニ列記シタル事項竝期限ヲ知事ニ報告シ且關係警察官吏ニ通知スヘシ

郡長ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハス又ハ之ヲ行フモ不完全ニシテ害蟲驅除豫防法第三條第二項ニ依リ町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行ハシムル必要アリト認メタルトキハ狀ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

第七條　郡長ニ於テ害蟲驅除豫防法第六條ニ依リ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物藁稈刈株又ハ雜草ヲ扱取ル必要アリト認メタルトキハ狀ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

第八條　郡市町村長害蟲又ハ黴菌蔓延ノ虞アリト認メタルトキハ直ニ隣接郡市町村長ニ通知スヘシ前項ノ通知ヲ受ケタル郡市町村長ハ直ニ之ヲ關係警察官吏ニ通知スヘシ

第九條　稻苗代ノ床地ハ幅四尺以內長サ適宜トシ各床ノ間隔ハ八寸以上ト爲スヘシ

第十條　害蟲又ハ黴菌驅除豫防監督上必要ト認ムルトキハ郡ニ在リテハ郡長市ニ在リテハ知事ニ於テ作人ニ對シ田畑標示ノ建設ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條　第四條第一項ノ届出ヲ怠リタル者、第六條第一項ノ郡長ノ命ニ從ハサル者又ハ第九條ニ違

背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十二條　前條ノ違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ前條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附　則

第十三條　本令ハ明治四十二年五月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　明治三十八年三月岐阜縣令第六號害蟲驅除豫防規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○告示

○岐阜縣告示第百四十六號

明治四十二年五月岐阜縣令第二十號害蟲驅除豫防規則第三條ニ依リ害蟲及黴菌驅除豫防方法左ノ通定メ同規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年三月岐阜縣告示第四十四號ハ本豫防方法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治四十二年五月二十二日

岐阜縣知事　薄　定吉

害蟲及黴菌驅除豫防方法

甲　害蟲

一　螟蟲

一　稻苗代及本田（移植後七月末マテ）ニ於テ卵塊ヲ採集シ之ヲ益蟲保護器ニ入レテ孵化ノ螟蟲ヲ殺シ寄生蜂ノ保護ヲ圖ルヘシ且成蟲ハ捕蟲器ヲ以テ掬殺スヘシ

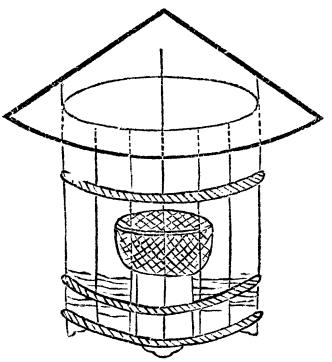
備　考

益蟲保護器ハ圖ノ如ク桶ニ少許ノ水ヲ入レ之ニ數滴ノ石油ヲ注キ中央ニ石又ハ木片等ヲ置キ其ノ

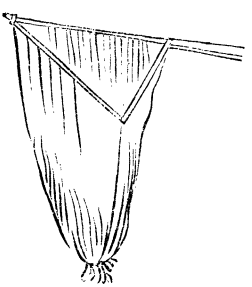
上ニ籠ノ類ヲ載セ其ノ中ニ卵塊ヲ入レ置キ凡ソ十日ヲ經過セシメ益蟲ノ發生シタルモノハ飛翔スルノ便ヲ與ヘ又螟蟲ノ孵化シタルモノハ石油ヲ注キタル水中ニ墜落セシムルノ裝置ヲナスヘシ但シ桶ノ緣ハ籠ヨリ高キヲ要ス且桶ハ笠ノ類ヲ以テ覆ヒ風雨ヲ防キ又ハ螟蟲ノ這出テサル樣注意スヘシ

捕蟲器ハ竹又ハ電線用ノ針金ヲ曲ケ之ニ便宜ノ布ヲ以テ圖ノ如ク製シ捕蟲器ノ緣ハ竹皮又ハ其他ノ材料ヲ以テ纏ヒ破損シ易カラサルヲ可トス

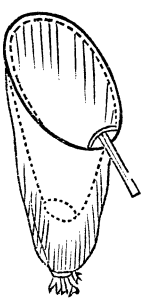
益蟲保護器



三角形捕蟲器



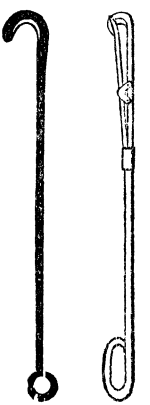
圓形捕蟲器



二、稻苗代及本田ニ於テ心枯又ハ枯穗トナリタル稻莖ヲ根部ヨリ切取リ螟蟲ノ蝕入セルモノヲ打殺スヘシ

備考

枯莖ノ切取ニ便ナル鎌ハ左圖ノ如ク鐵線ニ及金ヲ付シタルモノヲ便トス



二　浮塵子

一、稻苗代及田本（移植後十月初旬マテ）ニ於テ捕蟲器ヲ以テ之ヲ掬殺シ又ハ田面ニ油類ヲ注キ拂ヒ落シテ驅殺スヘシ

備考

注油量ハ石油又ハ輕油ヲ一反歩ニ凡一升五合ヲ標準トスヘシ又墜落スルモノハ幼蟲ニシテ成蟲ハ捕蟲器（咽喉付ノモノ）ヲ以テ掬殺スヘシ注油法ハ油ヲ竹筒ニ穴ヲ穿チタルモノ等ニ入レ稻ノ葉ニ觸レサル樣一樣ニ滴下スヘシ

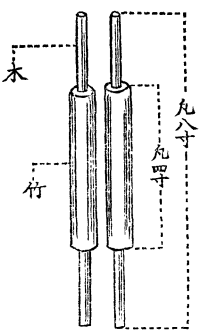
三　苞　蟲

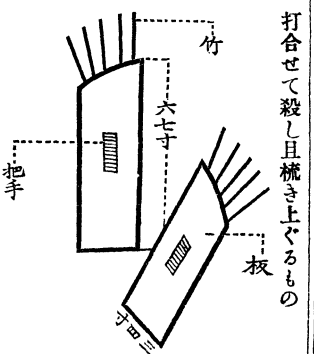
一、七月乃至九月ノ頃捲束セシ稻葉ヲ解キテ幼蟲及蛹ヲ捕殺スルカ又ハ潰殺器ノ類ヲ以テ潰殺シ且捲束セル稻葉ヲ解梳スヘシ

備考

潰殺器ハ左圖ノ如キモノヲ製シ兩手ニ持チテ害蟲ヲ潰殺スルカ又ハ打チ合セテ之ヲ殺シ且稻葉ヲ梳キ上クヘシ

二、捕蟲器ヲ以テ成蟲「イチモヂセ、リ」ヲ捕殺スヘシ





四　螟　蛉

一、稻苗代ニ於テ捕蟲器ヲ以テ幼蟲及成蟲ヲ掬殺シ且稻葉ヲ以テ捲束シタル繭ノ水上ニ浮フモノヲ掬ヒ取リ之ヲ驅殺スヘシ

二、本田ニ於テ石油輕油又ハ米糠ヲ撒布シ幼蟲ヲ拂ヒ落シテ驅殺スヘシ

備　考

石油又ハ輕油ハ一反歩ニ付凡六合ヲ又米糠ハ一反歩ニ付凡五升ヲ標準トシ撒布スヘシ

五　切　蛆

一、稻苗代ニ一旦深ク水ヲ湛ヘ該蟲ノ畦畔ニ這ヒ上リタル後苗代田ノ周圍ニ溝ヲ堀リ該蟲ノ侵入ヲ防クヘシ

備　考

切蛆ハ永ク水中ニ潛ミテ呼吸スル能ハサルヲ以テ若シ苗代田ニ發生シタル時ハ一旦灌水ヲ深クスヘシ然ルトキハ切蛆ハ周圍ノ畦畔ニ上ルヘシ此時四周ノ溝ヲ深クシ再ヒ該蟲ノ侵入スルヲ防クヘ

シ

二、成ルヘク幼蟲即チ「キリウジ」、蛹、成蟲即チ「キリウジカガンボ」ヲ捕殺スヘシ

六　稻　螽

一、五、六月頃始メテ田面ニ灌水スルノ際浮ブ所ノ卵ヲ採集シ之ヲ肥料瓶ニ投スヘシ

二、稻苗代ニ於テ捕蟲器ヲ以テ幼蟲ヲ捕殺スヘシ

七　蛇　蟲

一、稻苗代ニ於テ捕蟲器ヲ以テ捕殺スヘシ又被害甚シキトキハ葉先ノ黃變部ヲ切取リ之ヲ燒却スヘシ

八　椿　象

一、稻抽穗ノ際咽喉付捕虫器ノ類ニ拂ヒ落シテ驅殺スヘシ

九　葉　蟲

一、「ドロハムシ」ハ稻苗代及本田ニ於テ捕虫器ヲ以テ捕殺スヘシ又成ルヘク深ク灌水シ石油ヲ注キ拂ヒ落シテ驅殺スヘシ

備考

一反歩ノ注油量ハ石油又ハ輕油凡一升五合ヲ標準トスヘシ又幼蟲ノ群集セルモノハ蓑笠ノ類ヲ以テ拂ヘハ之ニ附着スルヲ以テ併セテ之ヲモ驅殺スヘシ

二、「ドロハムシ」ハ稻苗代及本田ニ於テ卵塊ヲ採取スヘシ

三、「クワハムシ」、「ヒメハムシ」ハ五月ヨリ七月マテニ於テ廣口ノ捕虫器ニ拂ヒ落シ驅殺スヘシ

十　象　蟲

一、「イチゾウムシ」ハ苗代及本田ニ於テ捕蟲器ノ中ニ拂ヒ落シテ驅殺スヘシ

二、「イネゾウムシ」ハ苗代及本田ニ於テ苟、甘藷或ハ干大根等ヲ所々ニ置キ之ニ集マルモノヲ捕殺ス

ヘシ

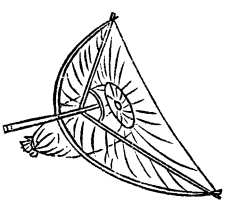
三、「ヒメゾウムシ」ハ冬季桑樹ノ枯枝ヲ切リ之ヲ燒殺スヘシ又四月乃至九月ノ頃ニ發生シタルトキハ廣口ノ捕蟲器中ニ拂ヒ落シ驅殺スヘシ

備考

「ヒメゾウムシ」ハ桑樹ノ刈枝ノ殘梢ノ枯死セル部分ニ蝕入シ越冬シ居ルヲ以テ小鋸ニテ之ヲ切取リ直ニ之ヲ燃料トナシ燒殺スヘシ又該蟲ハ他ノ襲撃ニ遭フトキハ死狀ヲ爲シ直ニ落下スルノ性アルヲ以テ其ノ性質ヲ利用シ左圖ノ如キ廣口ノ捕蟲器ヲ受ケ拂ヒ落シテ驅殺スヘシ

凡三尺五寸

廣口捕蟲器



四、「ナシゾウムシ」ハ五、六月頃廣口ノ捕蟲器ニ拂ヒ落シテ驅殺スヘシ又梨果ノ落チタルモノハ直チニ拾ヒ集メ適宜ノ方法ヲ以テ其ノ内ノ幼蟲ヲ驅殺スヘシ

備考

落チタル梨果ハ直ニ之ヲ拾ヒ取リ肥料瓶ニ投シ幼蟲ヲ死滅セシムル等適宜ノ方法ヲ執ルヘシ

十一　天牛

一、秋冬季産卵シタル個所ヲ搜索シ卵及幼蟲ヲ潰殺又ハ刺殺スヘシ

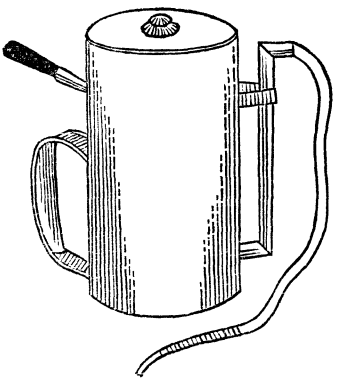
二、夏季成蟲ヲ驅殺スヘシ

三、春夏秋季樹幹ヨリ蟲糞ノ排出セル所ヨリ驅殺劑ヲ注入シテ驅殺スヘシ

備考

驅殺劑ハ除蟲菊粉一匁ヲ温湯一合ノ内ニ入レ能ク攪拌シ左圖ノ如キ注射器ニ容レ注入スレハ幼蟲即チ「テツポウムシ」ヲ驅殺シ得ヘシ

但シ水ヲ以テ除蟲菊粉ヲ溶ク場合ニハ一晝夜浸漬スヘシ



十二　小蠹蟲

一、秋冬季ニ於テ被害部ヲ切取リ直ニ燒棄スヘシ

十三　尺蠖

一、「エダシャクトリ」ハ冬春季ニ於テ幼蟲ヲ捕殺スヘシ但シ黑色ニ變シ樹上ニ斃死セルモノハ益蟲ノ寄生ニ罹レルモノナルヲ以テ其ノ儘ニナシ置クヘシ

二、「トゲシャクトリ」ハ二三月頃成蟲又ハ卵塊ヲ驅殺スヘシ

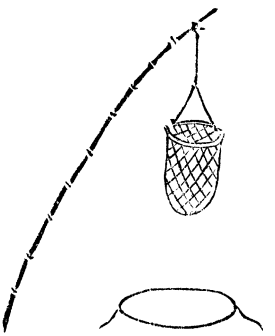
三、「トゲシャクトリ」ハ四五月頃幼蟲ヲ捕殺スヘシ又冬季根際ノ土ヲ堀起シ蛹ヲ乾殺セシムヘシ

十四　葉捲蟲

一、「クワノシンムシ」ハ春季桑芽ノ枯凋シタルモノヲ摘採シ其ノ中ノ該蟲ヲ殺スヘシ

備考

「シンムシ」ノ蝕入スルヤ嫩芽枯凋黑變ノ後數日ヲ經過セハ化蛹ノ爲メ他ニ移轉スルヲ以テ加害期中ハ時々驅除ヲ怠ル可ラス又益蟲保護ノ一法トシテ左圖ノ如ク摘採シタル桑芽ヲ籠ニ入レ肥料瓶ノ上ニ凡一週日以上吊シ置キタル後之ヲ其ノ肥料瓶ニ投スヘシ



蠶糞ハ直ニ田畑ノ肥料トナサス一度肥料瓶ニ投入シ腐敗シタル後ニ用ユヘシ

「シンムシ」ノ蛹化セルモノハ桑ノ青葉中ニ存在セルカ故ニ之ヲ判別シ難ク隨テ他ノ桑葉ト混シテ給桑スルコト多シ依テ蠶糞中ニ混在セル蛹ヲ驅除センカ爲ニ一旦肥料瓶ニ投スルナリ

秋季枝元ノ桑葉ヲ摘採シ堆肥トナスカ又ハ秋蠶ノ飼料ニ供スヘシ

「シンムシ」ハ桑葉ニ產卵シテ發生シ秋季落葉前幹枝ニ移轉シテ越冬ス依テ其ノ移轉ニ前チ之ヲ摘

採シテ秋蠶ニ用ユルカ又ハ堆肥トナシ其ノ蠶糞ハ前項ノ如ク腐熟セシムレハ驅殺ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ然レトモ桑葉ノ全部ヲ摘採スルトキハ桑樹ヲ枯死セシムルコトアルヲ以テ枝末ノ新葉ハ之ヲ殘シ置クヘシ又產卵セル桑葉ハ枝元ニ多ク枝末ノ桑葉ニハ產卵セサルヲ以テ之ヲ採ルノ心要ナキナリ

二、「イトヒキハマキムシ」ノ樹皮ニ附着セル卵塊ハ石油又ハコールタールヲ塗抹スルカ又ハ削リ取ルヘシ幼蟲ハ廣口ノ捕蟲器內ニ拂ヒ落シテ驅殺スヘシ

三、「クワハマキムシ」及「オグロハマキムシ」ノ幼蟲ハ葉ト共ニ潰殺スルカ又ハ摘採シテ肥料瓶ニ投入スヘシ

冬期樹皮ノ裂目、朽木及落葉間等ニ潛伏セルモノヲ驅殺スヘシ

十五　蛤　蠣

一、「キンケムシ」ハ五、六月頃幼蟲ヲ捕蟲器等ノ中ニ拂ヒ落シ驅殺シ又六、七月頃葉裏ニアル繭及卵塊ヲ摘採驅殺シ又冬季樹皮ノ裂目又ハ枯葉間等ニ潛伏セルモノヲ驅殺スヘシ

二、「クワケムシ」ハ五、六月頃幼蟲ヲ捕蟲器等ノ中ニ拂ヒ落シ驅殺シ又九月頃葉裏ニアル卵塊及秋季枝葉ニ幼蟲ノ群集セルモノヲ共ニ摘採驅殺スヘシ

三、「ホシハマキケムシ」ハ五、六月頃幼蟲及蛹ヲ葉ト共ニ摘採驅殺スヘシ

四、「ホシハマキケムシ」ハ秋冬季ニ於テ樹皮ノ裂目或ハ朽木等ニ潛伏セル幼蟲ヲ驅殺スヘシ

五、「チヤケムシ」ハ冬季葉裏ニアル卵塊ヲ摘採シテ驅殺シ又四、五月幼蟲ノ群集セル枝葉ヲ剪伐驅殺スヘシ

備　考

其ノ附近ニアル山茶科植物ニモ發生スルヲ以テ注意驅殺スヘシ

十六　避債蟲

一、五、六月頃發蛾前ニ於テ被害樹ハ勿論附近ノ樹木ニ附着セルモノヲ捕殺スヘシ

十七　夜盜蟲

一、春又ハ秋季ニ於テ幼蟲ヲ驅殺スヘシ

二、被害植物ノ根際ニ藁等ヲ布キ其ノ下ニ集マルヲ俟チ驅殺スヘシ

三、畑ノ周圍ニ空溝ヲ堀リ陷落スルモノヲ驅殺スヘシ

備考

「ヨトウムシ」ハ隊伍ヲ爲シ移動スルノ性アリ故ニ畑ノ四邊ニ幅凡五寸深凡一尺位ノ溝ヲ堀リ一旦陷落スレハ又上リ難キ樣急峻ニ爲シ置ヘシ又其ノ溝底ニ深キ小穴ヲ穿チ漸々移轉スルニ際シ更ニ此ノ穴中ニ墜落セシメ驅殺スヘシ

穴溝ヲ設クルトキハ他ニ蔓延セシメサルノ利アリ

十八　僞瓢蟲

一、六、七月頃捕蟲器ノ中ニ幼蟲及成蟲ヲ拂ヒ落シ驅殺スヘシ

十九　介殼蟲

一、苗木植付ノ際該蟲ノ存否ヲ能ク檢査シ若シ存在セルアラハ之ヲ取リ去ルヘシ

二、苗木ハ被害樹ノ近傍ニテ仕立ツヘカラス

三、幼蟲孵化シタルトキハ春夏季ニ在リテハ石油乳劑十五倍乃至二十倍ノ溶液ヲ灌注スヘシ

四、秋冬季ニ該蟲ノ附着セル部ヲ摩擦シテ潰殺シ又ハ石油乳劑冬季ハ五六倍秋季ハ十倍ノ溶液ヲ塗抹スヘシ

五、桑樹、果樹共苗木ニ附着スルモノハ靑酸瓦斯燻蒸法ニ係リ驅殺スヘシ

二十　立葉捲蟲

一、發生甚シキトキハ移植ノ際苗ノ先ト共ニ切取リ驅殺スヘシ

二、發蛾ノ際誘蛾燈ヲ用ヒ又ハ捕蟲器ニテ捕殺スヘシ

三、本田ニ於テ圓筒潰殺器ヲ以テ幼蟲及蛹等ヲ潰殺スヘシ

乙　黴菌

一　麥類黑穗病

一、病穗ハ胞子ノ飛散セサル前扱取リ之ヲ燒棄スヘシ

二、種子ハ左ノ方法ニヨリ殺菌スヘシ

藁灰一升ニ沸湯二升ヲ入レ十分之ヲ攪拌シ置キ翌朝其ノ上澄ヲ他ノ器ニ汲ミ取リ其ノ灰汁中ニ種子ヲ一晝夜半乃至二晝夜浸シ置キ（蔭所ヲ良シトス且種子ノ上ニ一二寸位液ノアル樣ニ浸スコト）之ヲ揚ケテ薄ク莚ニ擴ケ十分ニ乾シテ貯ヘ置クヘシ

二　桑赤澁病

一、春季發芽ノ際嫩芽ノ該病ニ犯サレタルモノヲ認ムルトキハ（被害芽ハ畸形ニ膨大シ且彎曲シ橙黃色ヲ呈ス）直ニ其ノ病芽ハ黃粉ノ飛散セサル樣ニ悉ク摘採シ地中ニ一尺以上ノ深サニ埋沒スルカ又ハ堆肥トシ或ハ燒棄スヘシ

二、春蠶期桑葉摘採後枝條ノ桑葉アル部分ヲ皆伐シ桑樹ニ近寄ラサル場所ニ於テ之ヲ燒却スヘシ

三、該病被害地域ト認メタル土地ノ桑樹ハ摘採ヲ爲サヽルモノト雖モ前項ニ準シ處理スヘシ但シ苗木及一年生ノ稚樹ニ限リ被害部ヲ伐採リ之ヲ燒棄スヘシ

三　桑枝枯病

一、本病ニ侵サレタル枝梢ヲ認ムルトキハ直ニ伐採シ燒棄スヘシ

○訓令

○岐阜縣訓令甲第二十四號

郡役所
市役所
町村役場

害蟲驅除豫防法第三條第二項ニ依リ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ施行シタルトキハ左記樣式ニ據リ町村長ハ翌年度四月十日マテニ郡長ニ郡市長ハ同四月二十日マテニ知事ニ報告スヘシ

明治四十二年五月二十二日

岐阜縣知事　薄　定吉

（樣式）

害蟲驅除豫防費報告

何郡（市、町、村）

市町村名	被害農作物ノ種類	同見積反別	平年收穫高	被害見積減收高	驅除豫防ニ關スル市町村費	同上夫役數	同上郡費補助額
計							

P
2-4
444

（第三種郵便物認可）